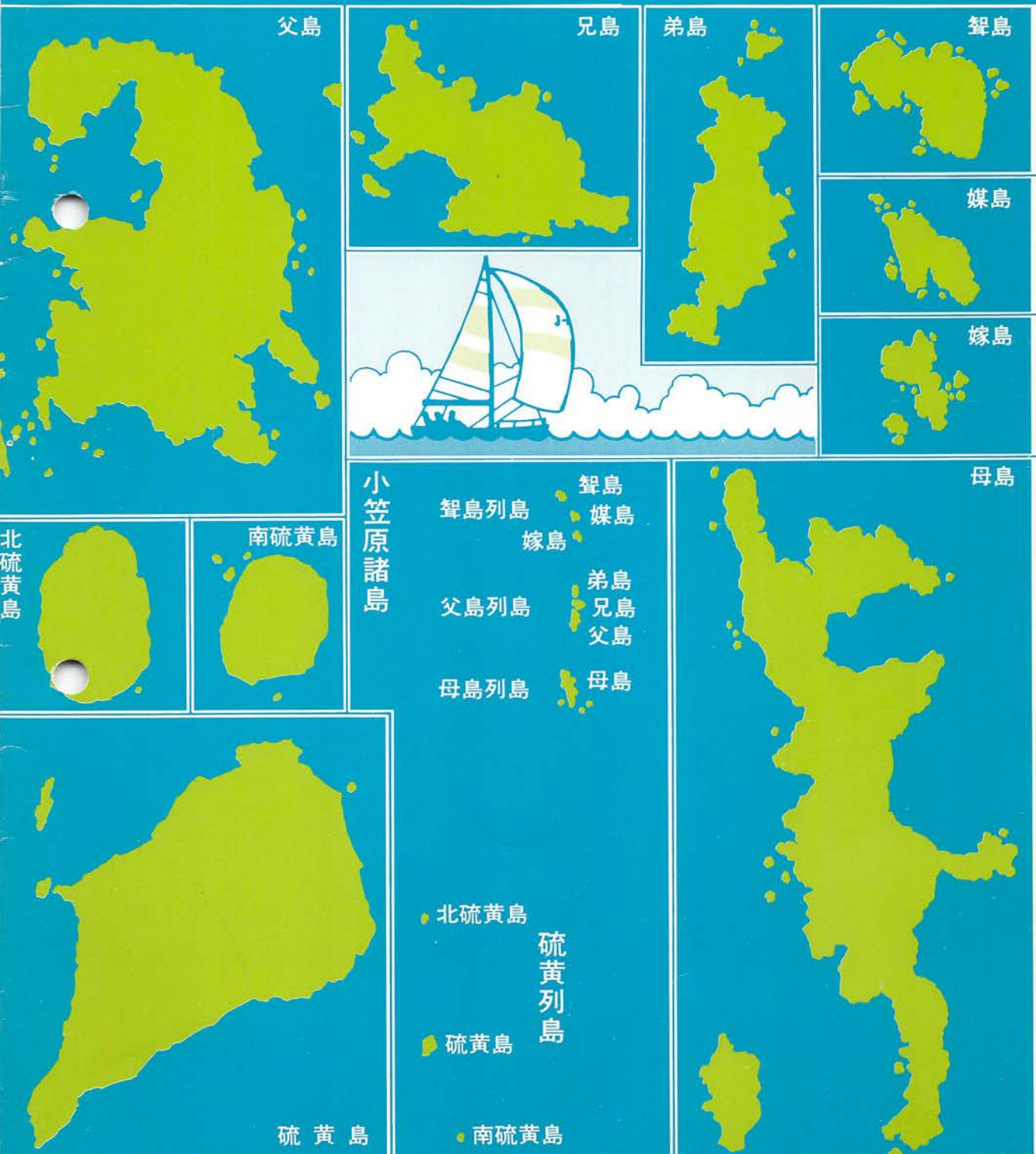


美しき光と風の誘い

第1回小笠原レース

主催 日本外洋帆走協会



国立公園 小笠原父島へ

いま、小笠原がぐ〜んと近くなりました。

一挙に12時間 短縮、



豪華高速船「おがさわら丸」3,540トン

東京—父島航路に堂々就航

「おがさわら丸」概要 長さ110.00m / 幅15.20m / 深さ6.20m / 総トン数3,540トン / 馬力11,600ps / 航海速力20.77ノット
/ 最高速力21.7ノット / 横ゆれ防止装置(フィンスタビライザー) / 横移動装置(バウスラスター) / 可変ピッチ
/ 旅客定員1,041名(近海区域) / 貨物積載量600トン / 造船所・三菱重工株式会社下関造船所

快適な船旅を……

 小笠原海運

〒108 東京都港区芝5-29-19 旭ビル
☎(03)451-5171(代)

目 次

小笠原レース開催によせて……………	2
美しき光と風の誘い……………	3
小笠原村の独立と	
初のクルーザーレースによせて……………	4
小笠原レースについて……………	5
第1回小笠原レース概要……………	6
Entry List……………	7
社団法人日本外洋帆走協会について……………	8
N、O、R、Cの生いたち……………	9
海外レース参加日本艇実績表……………	11

小笠原レース開催によせて

社団法人 日本外洋帆走協会会長
古屋 徳兵衛



第一回小笠原レースは、実行委員会の盡力により、漸く実現し、きたる5月1日父島からスタートする事となりました。

父島は、伊豆諸島から小笠原群島に到る600裡に及ぶ南方諸島の南端にあつて、北回帰線の僅か北に位し、季節風の支配下にあると云われておりますが、我々外洋ヨット乗りとしては一度は訪れたいと願っている島であると思ひます。

小笠原群島は、1593年小笠原貞頼の発見移住後30余年で本土との交通が途絶えたが、17世紀に到り外国の探険隊、捕鯨船などが入港若しくは漂着して而かもこれらは凡て帆船によって世に知られた事は、大洋に浮かぶ島の当然のこととは云い乍ら、この様に帆船にゆかりのある地に、我々外洋ヨットがこの父島に集結し、この地から本土に向け初めてレースを開始することは、意義深いものと思ひます。

ご承知のように、海は生物に恵みを与え、人は海を利用し続けて現代に到っておりますが、機械文明の急激な発展により、昔ながらの海は本来の機能を失ひ、沖繩・小笠原の両群島を除いて、最早昔の姿の海は、わが国から消えたと言っても過言ではありません。

海をこよなく愛する我々は、このレースを契機とし、これらの島々の「昔ながらの海と海の宝庫を我々みんなの手で守り通そう」と強く一般に呼びかけたいと願うものであります。

小笠原と本土を結ぶ距離は僅か510裡であり、その間大小の島が転在しておりますが、当日の気圧配置・風向・天候の組合せによっては、これらの島は一変して要注意地点ともなり得る要素も考えられ、また、北緯34度線に差しかかる頃の、気象と海流の实情を如何に有利に展開して相模湾内に浸入するかなど、多くの課題を抱え凡そ他のレースに比べて特有な性格を備えている海域とも云えます。

このレースは当協会として初の企画であり、参加艇にとっては未知のレースであるので、参加各艇は夫々慎重な検討をされている事と思ひますが、全艇無事このレースを完走されるよう皆様のご健闘を祈ります。

美しき光と風の誘い

小笠原レース実行委員長
石原 慎太郎



北から南に細長い日本列島は、その緯度の幅においては悠にアメリカに匹敵しています。ということは、それだけこの国土の風物は変化に富んでいるということですが、そうした他に替え難い民族の財産について案外多くの日本人が気づいていないようです。

昨今、海外への旅行はブームにありとどまるところを知らませんが、徒らに外国へ出かけるよりも腰を据え我が風土を見直すことの方が、どれほど価値ある発見があるかわかりません。

早い話、あの俗悪極まりない、もう全く何の情緒もないハワイやグアムなどといった島へ出かけるより沖縄の八重山や宮古の島々を訪れた方が、はるかに豊かな自然と深い旅情にひたることが出来ます。

ですが、未だ数多い未発見の日本の内で、小笠原ほど人に知られず、知られぬ故にその鮮烈なほどの美しさに亘れているところはありません。日本の中で、というより世界の中で、といっても過言ではありません。

私は二年前、環境庁長官時代に公務の視察で小笠原を訪れ、その比類ない美しさに滞在中の毎日、息を呑む思いがしました。小笠原は将しく、この地球に残された最後の楽園といえるでしょう。

小笠原諸島は、沖縄と違ってサンゴ礁で出来た島ではなく、太古の地殻大変動によって太平洋の真ん中に屹立した島です。それだけに、その風景とそれをとり囲む海の様相は雄大で男性的で、時には神秘的でさえあります。

私はスクーバダイビングをしますが、水に潜って眺めて、あれだけ水中の風物の変化に富んだ、ダイナミックで壮麗な美しさの海を知らません。先年、「南太平洋」の著者ミッチナーが絶讃したボラボラ島にもいきましたが、問題になりません。例えば父島と目と鼻の先の南島にある通称鯨池と呼ばれる海中の旧噴火口の入口と、それを囲む世界中で他にはクレタ島にしかないという、刃物のように固く鋭い花崗岩の自然の石畳、その石と石の間に密々に咲き敷かれた名知らぬ鮮やかな紫色の花たちの絶景、さらにその丘を越えた向うにある、今は地上から絶滅した化石になりつつある太古の巻き貝の殻の敷き詰められた無人の妖しいまでに美しい白砂の入り江、そしてその端にある、不思議にも真水の池。それは将に白昼夢に似た印象でした。

小笠原の魅力は、単に小笠原だけでなく、多くのヨットマンにとって処女地ともいえる八丈島以南の水域に点在する、隔絶された無人島や大暗礁の景観です。

ベヨネーズ、須美寿島、鳥島、孀婦岩等は、これもまた、その下に大火山帯の走る太平洋ならではの眺めです。沖縄レースが南西諸島をいっ方へ横切って太平洋へ出ると、後はフィニッシュまで単調な太平洋であるのとは違って、小笠原レースは伊豆七島から小笠原まで数十マイルごとに点在する真珠の首飾りのような奇岩や壮絶な無人島を一つ一つ確かめながら走るだけに、楽しみが付きません。

それに、沖縄レースと違って、風が南北いずれにふれようと、それほど苛酷な真上りのケースが極めて少い筈です。これはしたたかなNORCメンバーにとっては蛇足のコメントかも知れませんが。

いずれにせよ、レースの成績が何であらうと、レースのために小笠原なる処女地に歩を記し、想像を越えた私たち自身の美しい空、最も海らしい海、最も島らしい島を眺め、最も太陽らしい太陽の光に晒されたということだけで、満足せぬヨットマンなど絶対にいないだろうことを私は確信しています。

小笠原村の独立と

初のクルーザーレースによせて

小笠原村村長 持丸克巳

今回、父島二見港に集結して行われる「小笠原レース」に対し、小笠原村民を代表し、心から歓迎の意を表します。

海洋国として幾多の荒波を乗り越えて発展してきた日本、その中でも当小笠原村は、太平洋の真只中できびしい自然と歴史の中で幾多の試練を経て参りました。

このようなところを舞台として、機械力に頼らず、自然の力だけを活用して行われるこのレースは、私をはじめ村民にたいし、強い勇気を与えてくれるものと期待しております。

皆様にはなじみのないことでしょうが、小笠原では返還に伴う暫定措置として村の行政は、東京都職員にゆだねるという変則的な制度で運営されてきました。しかし、この4月22日の統一地方選挙を期して、小笠原が米国から返還され十一年目にして、初の村長及び村議会議員が選出され、住民自治に基づく村政運営が確立されることになりました。このような重大な歴史の出発を迎えつつある今、小笠原レースのスターティング・ハーバーとして父島二見港が選ばれたことは、新たな出発を迎えた小笠原村民にとって記念すべきこととなりました。

さて、父島二見港は東京から五百マイルの遠きにあり、今までは定期船により三日がかりでした。

それもこの四月には、新たな高速船により26時間、一昼夜の近きになっております。参加選手を始め、レース関係者及び観戦に来られる皆様が、できる限り満足していただけるよう、地元観光協会、漁業組合、その他関係機関一同心からお待ちしております。

村としては、村政確立及び統一地方選挙の後ですので、充分な協力ができない場合もあるかもしれませんが、しかしお迎えする気持においては、何にも負けないつもりでおりますので、レースの安全な運営と皆様の高度な技術をお祈りして、あいさつに替えさせていただきます。

小笠原レースについて

レース委員長 周東英卿



■日本オーシャン・レーシング・クラブ（NIPPON OCEAN RACING CLUB-NORC）は、今年の1月21日に創立25周年を迎えました。この記念すべき年に当り、小笠原レースが、沖縄レースに（1972年より隔年開催・沖縄→東京830浬）に次ぐ本格的な外洋レースとして、防衛庁並びに東京都小笠原村を始めとして関係諸官庁・関係諸団体・その他関係者各位の御理解と御支援とにより、実施される運びとなりましたことは、小笠原が日本に復帰して以来、久しくこのレースの実現を念願してきた我々ヨットマンの喜びとするものです。

■小笠原レースは、5月1日午前10時00分に小笠原の父島をスタートし、日本列島沿いに流れる黒潮を横切り、三浦半島の小網代にフィニッシュする航程515浬の外洋レースであり、全長45フィート～28フィートのオーシャン・レーサー18隻が参加して行なわれます。このレースは、5月上旬の気圧配置と低気圧の動き如何によっては、メイ・ストーム（台風なみに発達した低気圧）の直撃または影響を受けて、最も厳しい荒天レースになることも予想されます。又、これまでの外洋レースとは異なり、レース参加艇は本土に近づくまでは天測により船位を決定し、波に学び風に聞きながらタイドウェー、リーウェーを考慮して、コースを選定しなければならないため、航海術の優劣、ナビゲーターの真価が問われる。外洋レースとしては真に興味のある面白いレースです。

■外洋レースは、その全責任が艇長にあるという世界的に確立された鉄則と広い海域において、他に援助を求めず、自らの責任による艇の万全の整備と乗組員の平素の訓練とにより、あらゆる困難を自力で乗り切って航海を全うするというシーマン・シップに従って行なわれます。この小笠原レースに参加するNORCの精鋭18隻のオーシャン・レーサーは、レースにおいて、外洋レースの鉄則を固く守り、シーマン・シップに基づき、最高の知識と技術を駆使し、日頃の経験を生かし、鍛練の成果を遺憾なく発揮して、5月の4日乃至5日には、父島から小網代までの航程515浬を走破し、フィニッシュするものと思います。

■小笠原レースは、今後、回を重ねるごとに参加艇の数も増し、その内容も充実したものになると思いますが、願わくは、このレースが本土と美しい自然の島々、小笠原諸島とを結ぶ掛橋として、お役に立てる立派な外洋レースにまでなるよう育てて行きたいと思っております。

第 1 回 小 笠 原 レ ー ス 概 要

- 主 催 社団法人 日本外洋帆走協会
- 後 援 防衛庁、東京都、東京都小笠原村
- 支 援 海上自衛隊横須賀地方隊父島分遣隊
- 協 賛 (株)カティサークスコッチウイスキー(ジャパン)
(株)小笠原マリーナ
小笠原海運(株)
小笠原協会
小笠原マリーナボートクラブ
(株)エスビーエンタープライズ
(株) 玉屋商店
(株) シーボニア
(株) 舵 社
- スタート 昭和54年 5 月 1 日(火) 1000
- コ ー ス 東京都・小笠原村父島——神奈川県・三浦半島小網代(515哩)
- 参加艇数 18 艇
-

Entry List

Sail No.	Name of Yacht	オーナー名	艇長
1500	VIND FEMPE-DEL	小林 義彦	小林 義彦
1482	SINDBAD II	松本 太一	松本 太一
1477	CONTESSA VI	石原慎太郎	石原慎太郎
2112	FUJI III	藤本 達雄	宮坂 敬三
2000	GEKKO V	並木 茂士	並木 茂士
1767	無双	山崎 芳夫	山崎 芳夫
1720	光	砂田 信一	服部 一良
2101	青海波	清田 博	安岡 忠義
2082	祥鳳	為我井啓之	加藤 誠
1850	VEGA V	古川 保夫	古川 保夫
2370	RODEM VI	戸田 浩	武市 俊
2220	慎記郎	蝶野春太郎	戸叶 幹男
2011	がめらZ	朝河 清	朝河 清
1922	SURUGA II	橋本 健誌	大滝 敏之
2258	JOUR	鈴木 弥彦	鈴木 弥彦
2230	BYE-BYE I	小川 尚	高橋 郁夫
2317	風来坊	笹本 由文	賀川 正幸
2221	AZUSA	小野田三郎	熊沢 光政

社団法人 日本外洋帆走協会について

(NIPPON OCEAN RACING CLUB=N.O.R.C.)

(N.O.R.C.の目的)

外洋帆走に関し、調査研究、航海士法の向上及び強靱な精神力の養成並びに舟艇の安全性の確保及び性能の技術的改善等を図るとともに、国内的又は国際外洋レースを行い、もって海事思想の啓発、高揚に寄与することを目的とする。

(事業)

N.O.R.C.は前項の目的を達成するため、次の事業を行なう。

- (1)外洋帆走及び外洋帆走艇に関する調査研究、情報資料等の収集並びに提供。
- (2)外洋帆走に必要な技術の指導及び講習会の開催
- (3)外洋帆走艇の停泊施設の保有及び供用。
- (4)外洋帆走艇の安全検査の実施及び安全検査証書の交付。
- (5)外洋帆走艇の設計及び造船に対する指導・斡旋。
- (6)外洋帆走艇の登録証書、レーティングの計測証明書等の交付。
- (7)国内的又は国際的外洋レース等の開催又はこれらの援助。
- (8)外洋帆走に関する国際組織への参加。
- (9)その他本会の目的を達成するために必要な事業。

N.O.R.C.の生いたち

社団法人日本外洋帆走協会 (N.O.R.C.) (監督官庁、運輸省海運局) はC.C.J. 時代と、任意団体であったN.O.R.C.時代を経て今日に至っている。

C.C.J. (CRUISING CLUB OF JAPAN) 時代 (1948~1953)

- 1948 在日米人を中心として、4隻の外洋帆走艇をもって発足する。
- 1950 7月横浜一大島レースを行う。
- 1951 第1回大島レースを行う。R.O.C.レーティング・ルールを採用する。
- 1953 英人マッケンジー氏の指導のもとに会則・安全規則・レーティング規則の立案をなす。

N.O.R.C. (NIPPON OCEAN RACING CLUB) 時代 (1954~1964)

- 1954 C.C.J.をN.O.R.C.に改組し、年間のレース回数を増加する。
- 1956 神子元島レースを開始する。
高松宮杯レースを日本ヨット協会より継承する。
- 1960 鳥羽パールレース開始する。
- 1962 3月コンテッサII世 (石原慎太郎艇長) 第1回香港-マニラ・レースにN.O.R.C.会員で初の海外レースに参加する。
8月マーメイド号 (スキッパー堀江謙一) シングルハンドにて太平洋を横断する。
11月初島レースにて、早風 (早大)、ミヤ (慶大クルージング・クラブ) 遭難し、10名の人命を失う。
- 1963 前記初島レースの事故に鑑み、安全委員会を結成するとともに、運輸省海運局の指導により、公益法人への切替えの準備をする。
7月コンテッサIII世は、ロスアンゼルス-ハワイのトランパック・レースに参加する。

社団法人・日本外洋帆走協会 (N.O.R.C.)

- 1964 運輸大臣の認可により、社団法人日本外洋帆走協会 (N.O.R.C.) が誕生し、定款に基く公益団体としての活動を開始する。
- 1967 第1回八丈島レースを実施する。
- 1969 太平洋シングルハンドレース (米国スローカム協会主催) に協力する。
- 1972 第1回沖縄-東京レース (高松宮杯レース 830哩) を初める。
このレースは日本海域で、諸外国のトップレベルの外洋レーサーの参加も期待できるような国際的レースを育成したいという意図から企画された。

なお、この間会員は、太平洋横断、世界一周あるいはトランス
パックスレース、ホンコンーマニラレース、シドニーホバードレ
ース等の国際レースへの参加が次第に増加しつつある。

サンバードII世（山崎達光オーナー）シドニーでの世界ワント
ン・カップ選手権シリーズに初出場。

1973 デンマークで行われた世界ハーフトン・カップ選手権シリーズ
にサラブレットグループが参加。

1974 チャイナシー・レース（ホンコンーマニラ・レース）にわだつ
み参加。2位に入賞。

第2回沖縄ー東京レース開催。

スウェーデンで行われた世界クォータートン・カップ選手権シ
リーズにトレーサーII世、チタV世が参加。

1975 海洋博主催の太平洋横断シングル・ハンド・レース（サンフラ
ンシスコーホノルルー沖縄）にウイングオブヤマハ、サンバード
VI、マーメイド、オケラIII、リブ号が参加。

太平洋横断ハワイ・沖縄レース（ホノルルー沖縄）に無双、カ
ワムラ、大世、ラプソデビバーチェ、ビンドフェンブデールが
参加。

トランパックスレースに2艇、サザン・クロス・カップ・レー
スにサンバードV、都鳥IV、バーゴ等が参加。

1976 ニュージーランドで行なわれたダンヒル・カップ・レースに、
サンバードV、バーゴが参加。

第8回チャイナ・シー・レースに都鳥III、わだつみ参加。

クォータートン世界選手権（アメリカ）に4艇参加。

1977 トランパックスレースに月光V、参加。

アドミラルズ・カップに日本より初参加、サンバードV、都鳥
III、BBIIIの3艇をナショナル・チームとして派遣する。

1978 クォータートン世界選手権を相模湾で開催する。外国艇、多数
参加。日本優勝をはじめ上位をしめる。

パン・アメリカンクリッパー・カップ・ヨット・レース・シリ
ーズにナショナルチームを派遣。

現在、運輸省管轄下の公益法人としての日本における外洋ヨットを代表
する唯一の全国組織として活動している。

現在会員数 3,010名

登録艇数 852隻

本部 東京

支部 関東、駿河湾、東海、近畿北陸、内海、西内海、
玄海、

■海外レース参加日本艇実績表■

No. 1

年	月	レース名称	開催国	コース	湊	艇名	型式	オーナー氏名		セールNo.
1962	3	第1回チャイナ・シー・レース	ホンコン フィリピン	ホンコン～マニラ	600	CONTESSA II	渡辺 37	石原慎太郎		188
1963	7	トランス・パシフィック・レース	アメリカ	ロス・アンゼルス ～ホノルル	2225	CONTESSA III	LAPWOR- RTH 39	石原裕次郎	チャーター艇	29002
1964	3	第2回チャイナ・シー・レース	ホンコン フィリピン	ホンコン～マニラ	600	CONTESSA II	渡辺 37	石原慎太郎		188
1965	7	トランス・パシフィック・レース	アメリカ	ロス・アンゼルス ～ホノルル	2225	CONTESSA III	LAPWOR- RTH 39	石原裕次郎	チャーター艇	29002
"	"	"	"	"	"	CHITA II	横山 36	丹羽 由昌		216
1966	3	第3回チャイナ・シー・レース	ホンコン フィリピン	ホンコン～マニラ	600	ふじ	渡辺 44	陳 秀雄		380
"	"	"	"	"	"	月光 II	渡辺 32	久保田正敬		190
1968	3	第4回チャイナ・シー・レース	ホンコン フィリピン	ホンコン～マニラ	600	ミス・サンバード	渡辺 44	山崎 達光	旧艇名 ふじ	380
1969	12	シドニー・ホバート・レース	オーストラリア	シドニー～ホバート	630	VAGO	武市 36	武田 陽信		640
1970	3	第5回チャイナ・シー・レース	ホンコン フィリピン	ホンコン～マニラ	600	CHITA III	VAN DE 40	丹羽 由昌		236
"	"	"	"	"	"	EPICUREAN II	戸田 31	榊原 嘉男		238
1971	12	シドニー・ホバート・レース	オーストラリア	シドニー～ホバート	630	VAGO	武市 42	武田 陽信		1122
1972	12	ワントン世界選手権大会	オーストラリア	シドニー・ホバート・ レース併合	630	SUNBIRD II	S & S 38	山崎 達光		1111
1973	6	ハーフトン世界選手権大会	デンマーク	ハンデスタット周辺	200	THOROUGH- BRED	SCAMPI 30	伊藤 正	チャーター艇	30000
1973	7	トランス・パシフィック・レース	アメリカ	ロス・アンゼルス ～ホノルル	2225	CONTESSA III	LAPWOR- TH 39	石原裕次郎	"	29002
1974	3	第7回チャイナ・シー・レース	ホンコン フィリピン	ホンコン～マニラ	600	わだつみ	S & S 54	金子 一芳		1270
1974	8	クォータートン 世界選手権大会	スウェーデン	マルモ周辺	200	TRACER	OCEEAN 25	三宅 智久		1535
"	"	"	"	"	"	CHITA V	OCEEAN 22	丹羽 由昌		1537
1975	7	クォータートン 世界選手権大会	フランス	ドーヴィル周辺	200	ECLIPSE	ECUME 23	瓜生 昭一	チャーター艇	6478
"	"	"	"	"	"	PHYSALIS	ECUME 26	林 基	"	5792
1975	7	トランス・パシフィック・レース	アメリカ	ロス・アンゼルス ～ホノルル	2225	SUPER CHITA	CHANCE 39	川村 勝巳		1357
1975	7	トランス・パシフィック・レース	アメリカ	ロス・アンゼルス ～ホノルル	2225	VIND FEMPE- DEL	ERIC 39	小林 義彦		1500
1975	9	太平洋横断 シングルハンド・レース	アメリカ 日本	サン・フランシスコ ～ホノルル～沖縄	4200	WING OF YAMAHA	YA 36	戸塚 宏	海洋博主催	①
"	"	"	"	"	"	SUNBIRD VI	武市 36	武市 俊	"	⑤
"	"	"	"	"	"	MERMAID III	林 30	堀江 謙一	"	②
"	"	"	"	"	"	OKERA III	OKERA 30	多田 雄幸	"	③ 1525
"	"	"	"	"	"	RIB	CANAL 30	小林 則子	"	⑥
1975	10	太平洋横断 ハワイ・沖縄レース	アメリカ 日本	ホノルル～沖縄	3400	無双	林 36	山崎 芳夫	"	1767

■海外レース参加日本艇実績表■

No. 2

年	月	レース名称	開催国	コース	漕	艇名	型式	オーナー氏名		セールNo.
1975	10	太平洋横断 ハワイ・沖縄レース	アメリカ 日本	ホノルル～沖縄	3400	KAWAMURA	CHANCE 39	川村 勝巳	海洋博主催	1357
"	"	"	"	"	"	大世	S & S 38	岡村 欽一	海洋博主催	1280
"	"	"	"	"	"	RHAPSODY VIVACE	武市 48	蔭山 陽三	"	1348
"	"	"	"	"	"	VIND FEMPE-DEL	ERIC 39	小林 義彦	"	1500
1975	12	サザン・クロス・カップ・レース	オーストラリア	シドニー・ホバート・ レース併合	630	SUNBIRD V	S & S 54	山崎 達光	ナショナルチーム	1710
"	"	"	"	"	"	MIYAKODORI III	S & S 54	岡崎 弘	"	1666
"	"	"	"	"	"	VAGO	S & S 45	武田 陽信	"	1414
"	"	シドニー・ホバート・レース	オーストラリア	シドニー～ホバート	630	潮路 II	林 36	池田 祐之		1771
1976	2	ダンヒル・カップ・レース	ニュージーランド	オークランド周辺	350	SUNBIRD V	S & S 54	山崎 達光		1710
"	"	"	"	"	"	VAGO	S & S 45	武田 陽信		1414
"	3	第8回チャイナ・シー・レース	ホンコン フィリピン	ホンコン～マニラ	600	MIYAKODORI III	S & S 54	岡崎 弘		1666
"	"	"	"	"	"	わだつみ	S & S 38	金子 一芳		1270
1976	8	クォータートン 世界選手権大会	アメリカ	コーバス・クリスティ 周辺	200	RIO DE SUR	DOU 26	南川 佳三	ナショナルチーム	1899
"	"	"	"	"	"	MIDNIGHT HUMMER	BRODWO- RTH 26	羽柴 宏昭	ナショナルチーム チャーター艇	2300
1976	8	"	"	コーバス・クリスティ 周辺	200	CHOU-CHOU	N 24	吉川 誠一	ナショナルチーム	1846
"	"	"	"	"	"	SAKE	木原 24	木原 俊男	チャーター艇	1972
1977	7	トランス・パシフィック・レース	"	ロス・アンゼルス ～ホノルル	2225	GEKKO V	FRERS41	並木 茂士		2000
"	"	アドミラルズ・カップ	イギリス	カウズ・ファストネット ～プリムス	605	SUNBIRD V	S & S 54	山崎 達光	ナショナルチーム	1710
"	"	"	"	"	"	MIYAKODORI III	S & S 54	岡崎 弘	"	1666
"	"	"	"	"	"	B B III	武市 36	沢野 裕治	"	2049
"	7	クォータートン 世界選手権大会	フィンランド	ヘルシンキ周辺	200	BLACK ARROW	DOU 26	吉村 一平		2012
1978	2	SORC (Southern Ocean Racing Conference)	アメリカ	セント・ピーターズバ ークフオート・ロー	370	SUNBIRD V	S & S 54	山崎 達光		1710
1978	3	第9回チャイナ・シー・レース	ホンコン フィリピン	ホンコン～マニラ	600	TOGO V	DOU 37	山田 東吾		1995
1978	7	カウズ・ウィーク	イギリス	カウズ周辺	30	BELLERPHON OF LYMINGTON	CONT 32	山田 東吾	チャーター艇	5891
1978	8	パンアメリカンクリッパー カップ・ヨット・レース・シリーズ	アメリカ	ホノルル・ハワイ一周	800	GEKKO V	FRERS 41	並木 茂士	ナショナルチーム	2000
"	"	"	"	"	"	SUNBIRD V	S & S 54	山崎 達光	"	1710
"	"	"	"	"	"	CHUTZPAH	LEE 36	佐々木研一	ナショナルチーム チャーター艇	29020
"	"	オアフ島一周レース	"	オアフ島一周	100	CONTESSA III	LAPWO- RTH 39	石原裕次郎	チャーター艇	29002

快適で安全なセーリングを求めて……

エスピーエンタープライズが開発するマリンウェア
ラインオナー・シリーズは
どんな悪条件のもとでも
快適で安全なセーリングを楽しんでいただくための
機能性を秘めています。

LINE HONOR SERIES

STORM GEAR
STANDARD
TYPE II
PULL OVER
ONE PIECE
MARINE WARM WEAR
REVERSIBLE JACK
FLOATING JACKET
MARINE VEST

SIGNET

BARIENT



株式会社 **エスピーエンタープライズ** マリン事業部
〒104 東京都中央区八丁堀1-1-4 共同ビル ☎03(553)7811代
大阪事務所 大阪市北区天神西町8-17 デンマ・セントラルビル
エスピー食品株式会社内 TEL.06(364)6441

祝 小笠原レース

株式会社 小笠原マリーナ

取締役社長 小沢 治男



本社	住所	川崎市高津区管生3625
	電話	044-977-5740
営業所	住所	東京都小笠原村父島奥村10-5
	電話	父島局 2406・2535

海へ!!

この一冊とともに……

今、海には素晴らしい世界が開けようとしている。
この一冊があなたを海へ導く

'79年版・別冊〈舵〉／年間保存版

マリンスポーツガイド'79

海のスポーツ用品総カタログ

主な内容

- ☆ヨット、モーターボート最新デザインの紹介
 - ☆ハーバーから街へ！マリンスファッションあれこれ
 - ☆艀装品、航海計器の一流ブランド完全ガイド
 - ☆見てすぐ役立つマリナー情報
 - ☆メーカー、ディーラー、ショップ、関連会社、団体リスト、その他
- B 5判／360頁／定価980円（送料200円）

発行 株式会社 舵社

〒104 東京都中央区銀座5-11-13（ニュー東京ビル）
☎ 03-543-6051（代表）振替・東京1-25521番

TAMAYAの航海六分儀と天測計算機

六分儀による天測は航法上の基本的手段である事は云うまでもありません。天測の角度1'が海上の1マイルに相当する事から、六分儀の精度は航海者の安全からみても高いのにこした事はありません。TAMAYAの六分儀は50年以上にわたる経験に基づいて各パーツにいたるまで細心の注意が払われて製作されており、全世界から高く評価されております。

用意周到で知られる冒険家植村直己氏が犬ぞりによる北極点単独到達の偉業を成し遂げた影にTAMAYAの六分儀と天測計算機を駆使して位置決定を行った事があげられます。天測に全く経験のない氏が短期間に習熟し得たのは氏の熱意もさることながら天測計算機が開発された事もあずかって力があると考えられます。最新のMODEL NC-77天測計算機は2000年にわたる太陽の天測暦が内蔵され、太陽に関しては天測暦なしで複雑な計算がたちどころにできます。も早天文航法は全く身近なものとなりました。貴方も六分儀と天測計算機を駆使して立派な航海士になれます。

●お問い合わせは 株式会社 玉屋商店

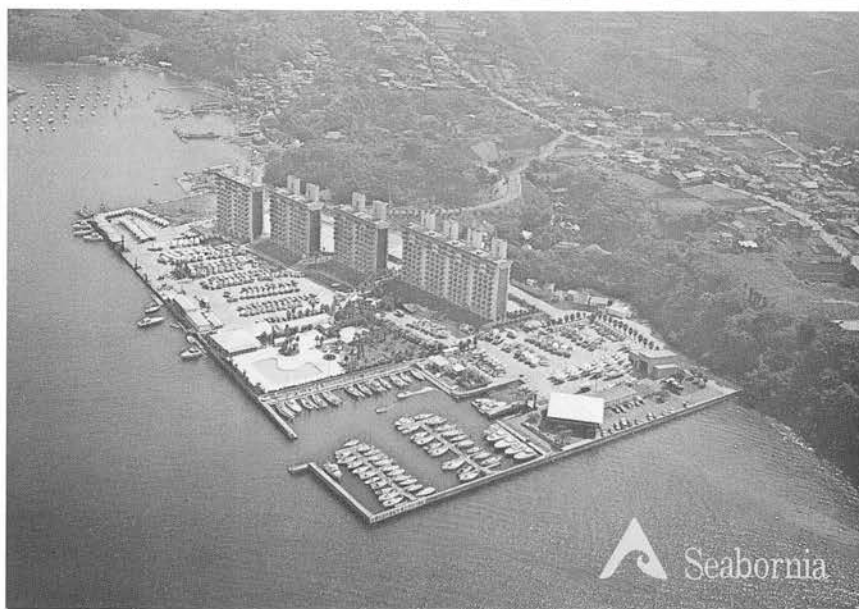
東京都中央区銀座3-5-8

電話 561—8771

開催 おめでとうございます!

1979年

小笠原レース



She(恋人)とのプランは
シーボニアで…

シーボニアは二人のオアシスです

コーヒー? WINE? ディナー?

アワビのステーキ

車海老のクリーム煮

平貝のムニエル

etc.

* お気軽にご利用下さい。

パーティーもお忘れなく

She(ご愛艇)のプランは
シーボニアで…

シーズン前にご愛艇のお手入れを

艀装? 修理? 塗装?

マリンショップ

リペアリング

ペインティング

etc.

* お気軽にご相談下さい。

事前点検もお忘れなく

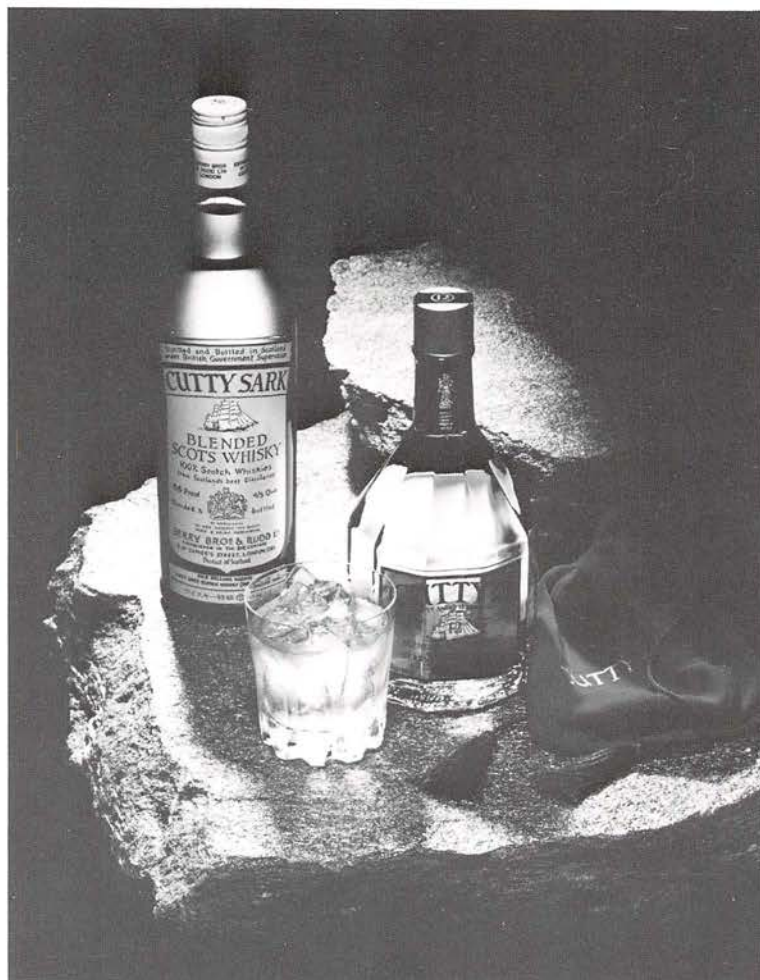
船検はお済みですか



Seabornia

KOAJIRO, MISAKI-MACHI MIURA CITY, KANAGAWA PREFECTUE, JAPAN

TEL: (0468)82-1212



モルトブレンドしたままの自然な色と香り、舌に優しい味わいで絶賛を浴びるカティサーク。丹念に熟成を重ね誕生したスコッチの貴重品カティ12。どちらもソフトスコッチの最たるものとして、お客さまの心を深くとらえてまいりました。快速帆船として勇名をとどろかせたカティサーク号しながら、順風満帆、さらに人気を集めながら、ひたすら快走を続けています。

男と女の間。

Soft, Soft & Soft Scotch

**CUTTY
SARK**

日本総代理店＝興カティサーク スコッチウイスキー(ジャパン)

賞賛の海を、快走中。



社団法人 日本外洋帆走協会(NORC)
〒105 東京都港区芝琴平町35(船舶振興ビル)
電話 東京03(504)1911